

「消防防災航空体制のあり方検討会」の検討経過等について

長野県危機管理部

6月20日

第1回消防防災航空体制のあり方検討会

座長：池田危機管理監兼危機管理部長

委員：白鳥伊那市長、足立飯山市長、熊谷高森町長、市村小布施町長、込山長野市消防局長、

・清水松本広域消防局長、小平佐久広域連合消防本部消防長、田畑上伊那広域消防本部

消防長

- ＜主な意見＞
- ・県消防防災ヘリコプターによる防災機能は不可欠
 - ・来春の林野火災消火活動に向けて段階的な再開を
 - ・運航再開には安全運航について更なる対策が必要 など

7月7日

第1回作業部会「更なる安全対策」について

座長：消防課長

委員：伊那市危機管理監、飯山市危機管理防災課長、高森町総務課長、小布施町総務課長

県内13消防本部から推薦のあった次長等、消防防災航空センター所長

オブザーバー：自衛隊OB 牧氏、東京消防庁萱津航空隊長、県警 下平課長補佐、櫛引課長補佐

- ＜主な意見＞
- ・ダブルパイロット制の導入
 - ・組織内の安全管理体制、第三者評価の仕組み
 - ・風通しの良い職場づくり など

7月中 埼玉県、岐阜県、陸上自衛隊ヘリコプター部隊を現地調査

8月1日 第2回作業部会 ・更なる安全対策(案)

・民間航空会からのヘリ機体、操縦士等の調達

8月22日 第3回作業部会 ・中長期的な課題

9月上旬 第4回(必要に応じて)

9月下旬 第2回消防防災航空体制のあり方検討会

当面の課題である来春の林野火災消火活動の再開に向けた方向性

◇更なる安全対策(案) ※裏面

◇民間航空会からのヘリ機体リース、操縦士等の確保

中長期的な課題である運航形態、山岳救助に係る検討状況

消防防災航空体制の更なる安全対策に向けて 全体イメージ

3つの視点で見直し:対策充実 ⇒ 2. 見える化 ⇒ 3. 継続的な改善

1. 安全対策の充実

事故になり得る要因と安全対策

(1) ヒューマンファクター（組織も含む）

〔組織・体制面〕

- ① ダブルパイロット制の導入
- ② 必ず2人以上による複数チェック体制
- ③ 安全運航に関する組織マネジメント強化
- ④ 風通しの良い職場づくり（安全運航管理者設置）

1人で判断させない
（複数の眼でチェック）

組織全体で安全管理
（PDCAサイクルで改善）

〔技術的側面〕

- ⑤ 運航可否判断、運航中止基準の明確化
- ⑥ 隊員の育成計画の作成、技量確認の実施
- ⑦ 対人関係や協調性などチーム力を強化研修
- ⑧ シミュレーターを活用した緊急事態の対処

基準の明確化
教育・訓練強化

(2) 物的不具合・機材未整備

- ⑨ 安全運航に係る機材整備の充実等
（機内カメラ等）

安全機材（設備）
の充実

(3) 体調不良、環境要因、共通・その他

- ⑩ 健康ケア計画、定期的なチェック体制
- ⑪ 消防吏員の派遣期間の延長等
- ⑫ 寮生活の改善 等

健康管理ケア等

2. 対策の見える化

上記の対策について
（仮称）
「長野県安全運航管理マニュアル」
を策定し、内部で明確化
「第三者による評価・助言の仕組み」
を構築し、外部から透明化

3. 継続改善の仕組み



継続的な安全対策の改善へ